

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Samsenwittayalai School



竹原市立忠海学園

交流授業

学 年：第8学年
単元名：Unit 4 Homestay in the United States
(NEW HORIZON English Course 2)
ねらい：互いの国の文化や習慣について、尋ねたり伝えたりすることができる。

Self introduction



Quiz about my school



活動内容：

①始めの挨拶（全体）

本校の教員から全員に向けて挨拶を行い、今回の交流のテーマを共有した。

②自己紹介（個人）

両校の生徒が1対1のペアとなり、簡単な自己紹介をした。その後、互いの趣味や好きなゲーム等について即興的なやり取りを行った。共感できる点がいくつかあり、交流が深まった。

③互いの文化や習慣についての紹介（個人）

②と同様に、相手校の生徒と1対1のペアとなり、互いの文化や習慣、流行っているものについて、クイズ形式で伝え合い、交流を図った。日本文化に関するクイズを出題した際のやり取りから、自分と相手校の生徒の日本文化に対する認識の相違に驚き、交流が深まった。

④振り返り（全体）

両校の教員が活動を振り返り、その場でフィードバックを行った。

《接続方法：ZOOM》

大切にしたこと

- ・伝えたい内容に関連した資料（写真等）を作成させ、必要に応じて資料を提示しながら、既習事項を駆使し、会話を継続・発展させるよう、日々の授業で言語活動に取り組ませた。
- ・事前に様々なトピックを用意し、相手の興味・関心に応じて、生徒が自ら話題を変える等して、会話が継続できるようにした。
- ・1対1での形態で交流を実施し、十分な交流時間を確保することで、生徒一人一人が即興で伝え合うことができるようにした。
- ・会話を広げたり継続させたりするために、質問に対して事実や自分の意見等を述べたり、関連した質問を返したり、相づちを打ったりするなどの指導をした。

交流を終えて

生徒の声

- ・外国に友達ができて嬉しかった。
- ・タイのシンボルがゾウだと知って驚いた。いつかタイに行き、実際に会って話してみたいと思った。
- ・伝えたいことをスムーズに伝えることができてなくて悔しかった。
- ・2回目の交流授業では、自分の名前を憶えていてくれて嬉しかった。

先生の声

- ・相手校と1対1という形態でやり取りすることで、緊張感があったと思うが、リアリティに溢れたコミュニケーションの場を経験できる有意義な時間になった。
- ・英語学習のゴールイメージを生徒と共有することができた。
- ・想像以上に生徒の対応力が高いことに気付くことができた。
- ・本事業の生徒の姿をゴールイメージとして逆向きで授業づくりを行い、マネージメントしていきたい。